

令和 3年度 行政評価事業別シート

	実計対象	<input type="checkbox"/>	評価対象	<input checked="" type="checkbox"/>	新規	<input type="checkbox"/>	完了事業	<input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/>	担当者	塩崎智一
	全体計画						経費区分		-		内線	3414
事務事業名	4164 産地ブランド推進事業											
所 属	150100 産業振興部・農林課											
施 策	15012100 農業の活性化											
予算科目	会計	01 一般会計										
	科目	060103 農林水産業費・農業費・農業振興費										
	事業	060000 産地ブランド推進事業										
事業目的						事業概要・効果						
須坂産農産物のブランドイメージの向上、新たな農産物のブランド化が求められているほか、グリーンツーリズムなど新たな農業の展開を想定した取組みが必要。						振興果樹の生産拡大による産地ブランドの構築、体験型農業をはじめとしたグリーンツーリズム・地産地消等の推進もって、ブランド化がすすむ。						

PLAN-DO

年度実績及び予定

令和 2年度 実績	令和 3年度 予定
新農業創生活動事業補助 3団体 300千円 振興品種振興事業補助 1500千円 農業体験プログラム参加者 317人	新農業創生活動事業補助 4団体 400千円 振興品種振興事業補助 1500千円 農業体験プログラム参加者 100人
令和 4年度 予定	令和 5年度 予定
令和 6年度 予定	令和 7年度 予定

指標名	グリーンツーリズム体験プログラム参加人数						
算式						単位	人
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
目標値	目標	100					
	実績						
指標選定の理由	農業と観光が連携することで、体験交流型農業の推進を図る。						
最終年度目標の根拠	106人（H28）の参加者を目標に維持をしていく。						
指標名							
算式						単位	
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							
指標名							
算式						単位	
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							

事業費

(単位：千円)

		令和2年度 決 算	令和3年度 予 算
事業費		4,506	5,759
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	40	120
一般財源		4,466	5,639
人員数(人)	正規職員	1.2	1.2
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.7	0.7
人員コスト	正規職員	8,361.6	8,361.6
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	1,174.6	1,174.6
	計	9,536.2	9,536.2
市民一人当たりの経費		0.3	0.3
総額		14,042.2	15,295.2

(単位：千円)

令和2年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
7節 報償費	4	謝礼4
10節 需用費	406	消耗品46、印刷製本費360
12節 委託費	0	
14節 工事請負費	0	
18節 負担金補助及び交付金	1,920	農業創生活動補助金（伝統野菜3団体）300 園芸産地育成振興対策事業補助金1,500 ほか
その他	2,176	役務費、備品購入費ほか

(単位：千円)

令和 3年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
7節 報償費	6	謝礼6
10節 需用費	449	消耗品費79、食糧費10、印刷製本費360
12節 委託費	0	
14節 工事請負費	0	
18節 負担金補助及び交付金	2,590	新農業創生活動補助金400 園芸産地育成振興対策補助金1,500 ほか
その他	2,714	旅費373、役務費75 ほか

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	必要不可欠
評価コメント	生産者だけでは補えない部分について、行政も一緒になってPRするとより効果的。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	有効
評価コメント	ふるさと納税寄付額も果物を中心に年々増加傾向となっており、少しずつ事業の成果が表れてきている。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	変わらない
評価コメント	果物のパンフレット作成時は、農家広告枠を設け財源確保に努めている。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

新型コロナウイルス感染症の影響により、計画していた事業ができなかった。情報発信をもっと積極的に行う必要があった。

ACTION

1次評価

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続	次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント		2次評価コメント	
農作物のブランド化は農業振興を図る上で非常に重要		須坂産農産物のブランドイメージ向上は、果物を中心としたふるさと納税寄付額の増加にも繋がっており有効な事業である。	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	